

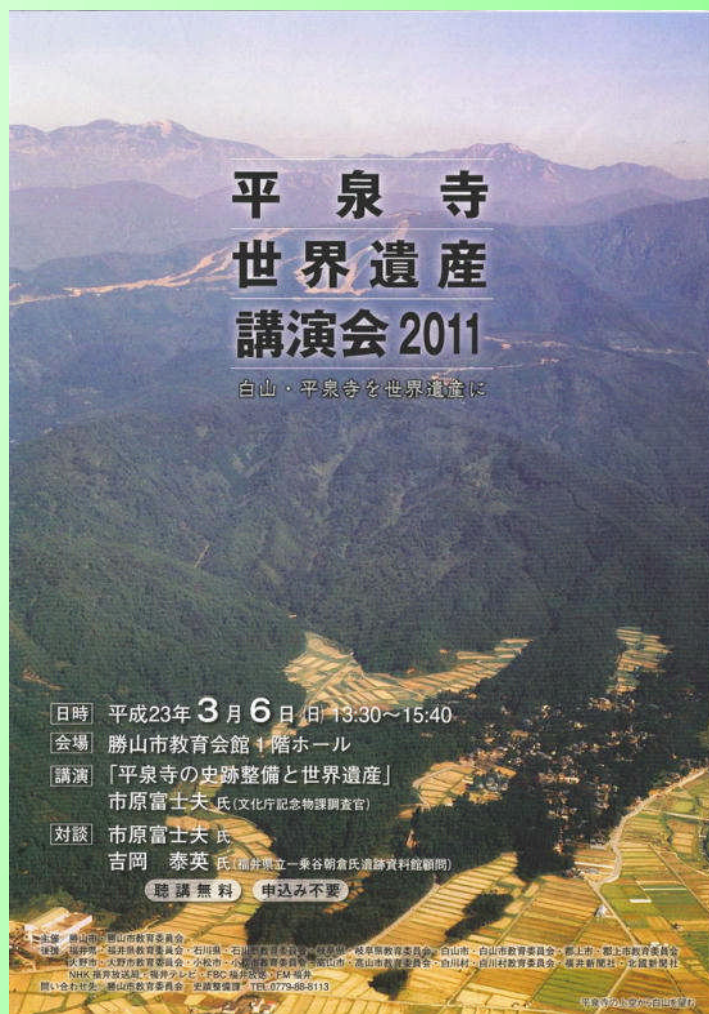
世界遺産へ向けてー3月にイベントが2つあります！ー

第1弾

平泉寺 世界遺産講演会 2011

ー白山・平泉寺を世界遺産にー

市原富士夫氏(文化庁)の講演では、平泉寺で行っている整備や世界遺産へ向けての活動について、世界的な見地から先進地のお話をお聞きします。対談では、平泉寺の整備や調査をご指導いただいている吉岡泰英氏(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)も加わって今後の方向性を探ります。ご来場お待ちしております！



第2弾 白山文化研究会 第4回例会

ーテーマ:都周辺にひろまった白山信仰を考えるー

京都府宇治市にある白川金色院の発掘調査では、平安期の仏堂・経塚、室町期の僧坊・庭園などが検出されています。また、金色院の中心にある白山神社の拝殿は、建治3年(1277)に建立されたものです(国重要文化財指定)。今回の例会では、近畿地方の古代・中世寺院(仏堂・僧坊・経塚)の調査などから、都周辺への白山信仰のひろがりについてせまりたいと思います。どなたでも聴講できますので、ぜひご参加下さい(聴講無料)。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No.29 (2011年2月号)

【発行】
勝山市教育委員会史蹟整備課
【発行日】
平成23年2月24日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電話:0779-88-8113(直通)
メール:shiseki@city.katsuyama.lg.jp

発掘現場通信 拡大版

今年度6月中旬より、南谷坊院跡の東側で発掘調査を行ってまいりました。今回の発掘現場通信は、「僧坊区画3東側」地点の調査成果についてご紹介したいと思います。



ポイント！

なぜ
発掘調査をしているのですか？

- 坊院区画の発掘調査地点は、平成3年度に発掘調査され、現在露出展示している石畳道のすぐ北側に隣接する場所です。
- 坊院区画2(平成16年度調査地)と坊院区画3(平成18年度調査地)では、平成20年度から行っている文化庁の補助事業「史跡等総合整備活用推進事業」で、遺構表示整備(石垣の修復・復原、植栽による遺構表示など)・環境整備(修景・芝生)・サイン整備(解説板・遺構表示板設置)などを行う計画です。
- 坊院区画3の東側には、40年ほど前の土地区画整理にともなう近年に造成された法面がありました。平成22年度は、この近年の法面を発掘調査し、中世の石垣などの検出をめざしました。



坊院区画3東側の 発掘調査

発掘現場通信 拡大版 (…つづき)



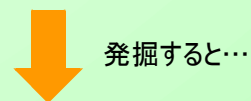
ポイント！

発掘調査をして わかったことは何ですか？

- 坊院区画3の東側を区切る石垣と、南側の石畳道に沿った土塀の基礎石垣がみつかりました。坊院区画3の北側石垣は平成18年度の調査で、西側石垣は平成21年度の調査でみつっています。その結果、坊院区画3の規模は、約1,500㎡(450坪)であることがわかりました。
- 坊院区画3の出入口(平成3年度に発見！)の奥に石畳がみつかりました。また、さらに奥の方(北)へつづいていく石畳道もみつかりました。この石畳道は、坊院区画3の出入口から、坊院内の主要な建物につながる通路と考えられます。石畳道の西側に並行しては、坊院内を区切る土塀基礎石がみつっています。
- 出入口から坊院の中を建物に向かって延びていく石畳道は、平泉寺では他の地点でもみつっています。坊院づくりのパターンがあったのかもしれない。
- このような石垣や石畳道は、16世紀中ごろ(今から450年ほど前)までにはつくられたと考えられます。



調査前の状況です。まるく囲ったところが調査地です。石畳道と坊院の出入口(人が立っているところ)は平成3年度にみつかりました。



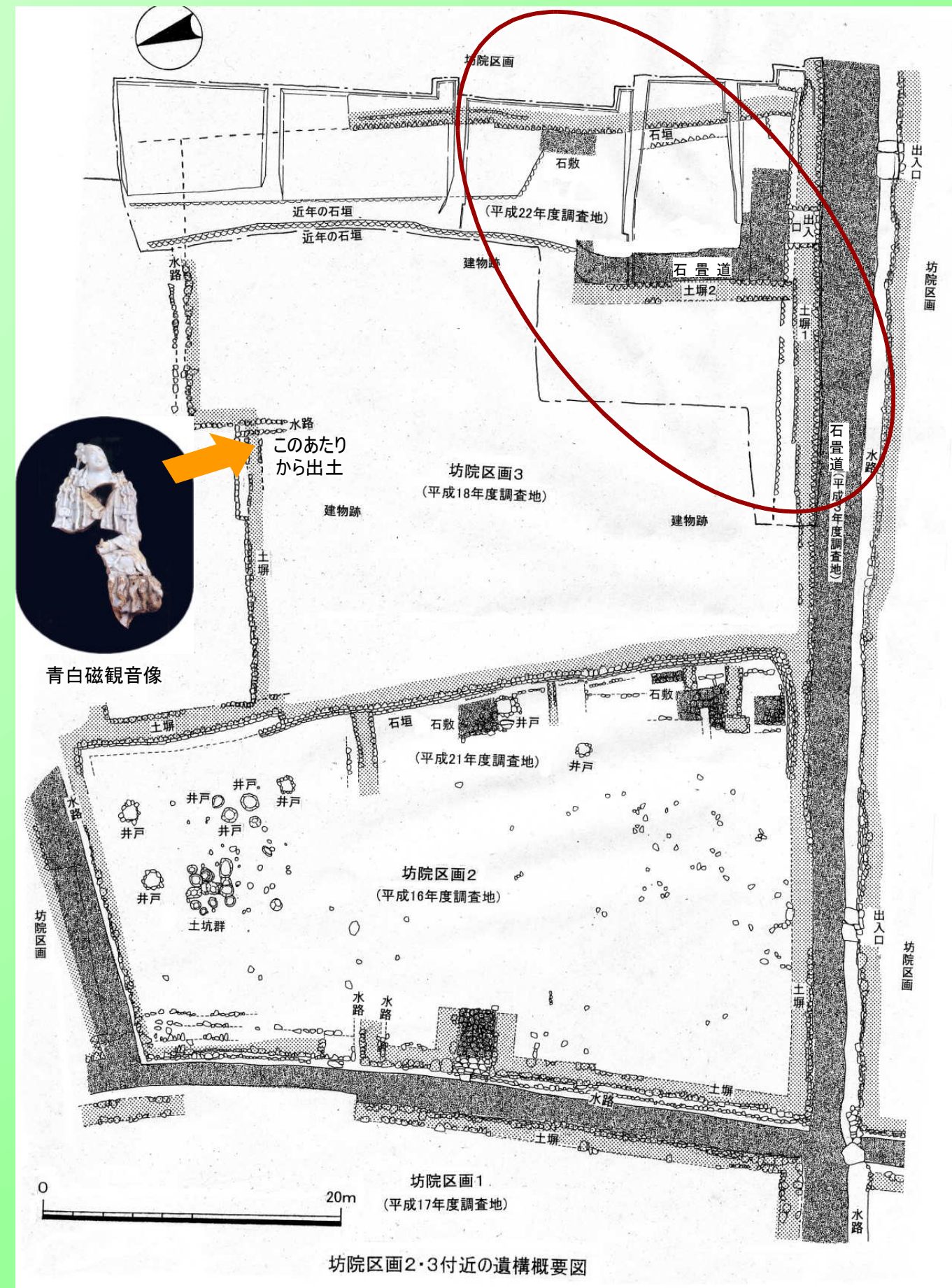
発掘すると…



土地区画整理の整地土は深さ2.5mほどありました。真夏の炎天下、初冬の小雨が降る中、作業員さんのがんばりで丁寧に掘り下げていきました。この整地土からは、焼土や多量の石に混ざって、13世紀～16世紀の遺物がたくさん出土しています。



出入口から建物に向かって坊院内をのびていく石畳道は、坊院区画3のすぐ東側にある「門・土塀復元予定地(平成20～21年度調査地)」、「推定地藏院跡(平成4年度調査地)」「推定西蓮院跡(平成20年度調査地)」でもみつっています。



坊院区画2と3の平面図です。まるく囲ったところが今年度の調査地です。坊院区画3の平成18年度の調査では、中国製の青白磁観音像というめずらしい陶磁器が出土しました。現在、整備に向けた実施設計を行っています。